

# 宿縁

十二月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番二十九号

浄土真宗  
本願寺派

## 中原寺

TEL 0477-372102  
FAX 0477-372102

### むなししい人生を 過ぎさないために



歳末の時期は否応なくこの一年を振り返るものですね。

あわただしく過ぎ去った日々の中にも充足感を知ることがなければ、人生は虚しいものとならざるを得ません。充足とは自分の思い通りになったということではありません。たとえ辛いことや悲しいことに出遭ったとしても、よくよく考えて見ると、確かなモノサシを通して、そのこの意味を思い直すことができるということです。

「損か得か人間のものさし、うそかまこと

か仏のものさし」は、相田みつをさん(書家の発した有名な言葉ですが、我欲の目で見えることのできない私のモノサシで見るとではなく、ものごとをありのままに見る仏様の智慧の眼を通して見なければ物事の本質は分からないのです。

仏さまのものさしを通すとは、私においてはお念仏を申すことです。

「協和発酵工業」の会長として実業界で活躍しながら、在家仏教協会を設立して仏教の普及に尽くされた加藤弁三郎氏が、ある時NHKのインタビュー番組に出られたことがあります。宗教のことは全くわかりませんが、といったふうの若い記者が質問しました。

「念仏を称えるということはどういうことなのか。念仏を称えていったい何になるのでしょうか」

すると氏はきつぱりと答えられました。「あなたはね、念仏を称えたことがありませんか。念仏を称えてもいない者が、念仏の意味を知って何になるのですか。それは単なる知識です。念仏の意味というものにはね、称えることを通して目覚めてゆくべきなのです」と。

知的な理解によって宗教に近づけると考える現代人には、随分と不親切な答えに聞こえるかも知れません。しかし、この知的理解というもののほど危ういものはありません。

ん。

親鸞聖人のお師匠様である法然聖人は、仏の本願に誓われた念仏こそ、万人にひらかれた最もすぐれた行であると、専ら「南無阿彌陀仏」と口に称えることをすすめられました。それは仏の願いに随順しているから、ということでした。念仏にはどのような意味があるのか、どのような気持ちで念仏すればいいのか、念仏を称えたらどうなるのか、そういった様々の分析や議論を捨てて、「ただ念仏せよ」という如来の願いにしたがって念仏する、その素朴の態度の中にこそ、かえって念仏する心の純粋な姿があるというのが法然聖人のお立場でありました。

親鸞聖人は、この法然聖人の教えに従って、

「この親鸞にとつては、ただ念仏して阿彌陀如来に救われるべきであると法然聖人がおっしゃったのをうけたまわって、信じるよりほかに格別なわけはないのである」と。

(歎異抄第二条)

念仏道に帰依されました。

如来の本願とは、念仏を称えたか称えないかを条件にして救おうとするものではありません。私たちに真実を知らしめんとする如来の本願が、「念仏申さんと思ひ立つ心」として私たちの心に実現することを誓ったものです。この如来の心にうながされて「南無阿彌陀仏」と仏の名を呼ぶ時、悩み多い人生の中でたうちまわっていた私たちは、いのちの根源に目をひらかせられるのです。

すなわち、念仏する者は仏の名を呼ぶことを通して仏のはたらきに呼びさまされるのです。

私たちは皆名前というものがありません。

そしてそれぞれにいわれがあります。私たちの名前には、それをつけてくれた人の願いがこもっているはずで

と、名前は二つの役割があると言います。「太郎」という名前は第一に太郎以外の人が太郎と呼ぶ時に用いるものですが、太郎みずからが自分のことを太郎と名乗るときにも用います。また、「名」という文字は「夕」という字に「口」という字を合わせたものだと言っています。「夕」とは夕方、すなわち、「うすくらがり」のことです。くらがりのなかでお互いの顔が見えない時、「太郎ですよ」とみずから口をきくことを「名」といふのだと言います

母親と子供の会話を側で聞いてみると、そういう感じがよくわかります。「お母さん」という呼びかけは、子どもが母を呼ぶ声ですが、母親自身が子どもに向かって、自分のことを「お母さん」と呼ぶことがあります。「そんなことをするなら、お母さんはもう知りませんよ」などという時の「お母さん」は、母親自身の名のりです。

「南無阿彌陀仏」という言葉が、「阿彌陀仏に帰依します」という意味である以上、それは第一に私たちが仏の名を呼ぶものであることにちがいはありませんが、親鸞聖人は、仏に向かって呼びかけているがごとくに見える念仏の声の中に、仏の側から私たちに向かって届けられた願い心の呼びかけを聞いていったのです。

私の口の上に念仏の一声があらわれ出るためには、教えを聞く場を通さなければなりません。お念仏を申しましょう！

【寺灯雑記】

○特養「あそか園」で奉仕

11/8  
 仏教婦人会活動の一つとして奉仕を続けている江東区の特別養護老人ホーム「あそか園」へ会員4名が出向き、室内や廊下の清掃作業をいたしました。  
 ご苦労さまでした。

○ご門主から「おかみそり」を受ける

11/15・16  
 今年も築地本願寺の報恩講法要中に行なわれた「帰敬式」に、当寺から左記の8名の方々が参詣され、莊嚴まばゆい本堂の厳肅な雰囲気のもと、ご門主からおかみそりの儀式を受け法名をいただきました。また多くの受式者を代表し村田和教さんが「誓いの言葉」を尊前で読み上げました。和教さんは「お断りしようとも思いましたが、何とか責任を果たせました」と感想を語っています。

- \* 江口京子さん      \* 下川英昭さん
- \* 新保勝巳さん      \* 杉田喜美子さん
- \* 福島秀昭さん      \* 福島照子さん
- \* 藤居敏弘さん      \* 村田和教さん

おめでとございます。  
 法名をいただくことは、真宗門徒の自覚をもって聞法生活に勤しむ一歩をふみだすことで、心からお念仏ご相続を念じています。

○2日間にわたり報恩講法要を営む

11/20・21  
 浄土真宗においては、年間の諸行事の中で総決算として位置づけられるほど重要な親鸞聖人報恩講法要が20日、21日と2日間

勤まりました。

20日の夕刻、山門から本堂へ続く参道には皆さんの描いた和紙の灯籠が沢山に並べられ、ローソクの火が灯って報恩講の雰囲気が出されました。

5時からは聞法会館で「親鸞さまを讃える音楽の夕べ」が始まり、出演いただいた佐野京子さんのキーボード演奏によって日本の名歌や報恩講の歌、親鸞さまなど、参詣者が一緒に唄う楽しい集いとなりました。お内陣のお莊嚴がしつらえられた本堂では初夜の勤行と御伝鈔の拝読があり、ご住職、前住さんの法話を聴聞しました。

21日は早朝6時半から朝のお勤め、そして11時から日中法要、午後からは他寺院住職の方の出勤で賑やかに満座法要が営まれました。そして午前と午後の2座、布教使の池田行信師が「いのちへのまなざし」「日本人の宗教意識」と題した法話を分かり易くお話になりました。

また、婦人会のみなさんが調理した前夜とお昼の精進のお齋も好評で、お煮物の由来を通して親鸞さまご一生のご苦労を偲ばせていただきました。

○門信徒会役員会を開く

12/3  
 今年度の第5回定例門信徒会役員会は15名が出席して開かれました。  
 主な議題では、明年度の行事日程、5月の伝灯奉告法要団参旅行、宗門総合振興計画による当寺への依頼額の進納時期、聞法会館の外壁補修等に係る工事業者と見積額の検討などが協議されました。

○賑やかに年末懇親会を催す

12/10  
 今年の壮年会と婦人会の合同年末懇親会は、聞法会館を会場にして39名が参加して賑やかに行われました。  
 冒頭、壮年会会員の平田史郎さん(国府台女子学院理事長)が、学術振興に尽くした功績で秋の藍綬褒章を受章されたことが報告され拍手を浴びました。

宴会では、レンタルで運び込まれたカラオケセットでそれぞれ得意の歌声を響かせ楽しみました。また女性からは日本舞踊、詩吟なども披露され、賑やかな語り合いが続きました。

○原山さんがNHKラジオに出演

壮年会会員の原山建郎さん(遠藤ボランテイアグループ代表)がNHK2ラジオ「宗教の時間」周作・心あたかな医療」に出演します。闘病の生涯を送った作家・遠藤周作が情熱を傾けたのが「心あたかな医療」キヤンペーン。その片腕として活動を支えた原山さんが、遠藤周作の信仰の核心について語っています。是非お聞きください。  
 放送は12月25日(日)午後6時30分～7時までの再放送です。

○聞法会館の外壁補修工事の予定

かねてより検討されてきました聞法会館の外壁と屋上の補修工事が決まり、明年1月下旬から3月末までの予定で足場を組んでの工事に入ることになりました。  
 しばらくの間ご不便をおかけすることになります。ご了承ください。

【ご案内】

☆伝灯奉告法要団体参拝旅行募集!

\* 期日：五月十五日～十七日(二泊三日)  
 ・ 旅行代金：七万九千円  
 ・ 旅程：京都本山、第25代専如門主伝灯奉告法要参拝、福井東尋坊、吉崎御坊、金沢別院、兼六園など往復新幹線利用  
 ・ 先着20名。お早めにお申込み下さい。

☆元旦修正会修行

\* 新年一月一日(祝) 朝八時～九時半  
 ・ おつとめ「正信偈六首引き」  
 ・ 元旦章拝読  
 ・ 年頭法話：住職、前住職  
 ・ ご流盃の儀

・ 京風お雑煮の接待

生まれて 初めて迎えたこの年 この命。いつの日か いつの日にかと 過ぎる一生。一年のスタートはあなたにとって自分の願いを頼むのか、感謝の始まりなのか問われます。どうぞご家族お揃いでお参り下さい。

【法座・行事案内】

- 和讃に学ぶ 十二月二十四日(土) 三時
- 石段清掃奉仕 十二月二十八日(水) 十時
- 婦人会総会・新年会 一月七日(土) 十一時
- 和讃に学ぶ 一月十四日(土) 三時
- 常例法座 一月二十一日(土) 一時
- 門信徒会役員会 一月二十一日(土) 三時半
- 壮年会総会・新年会 一月二十八日(土) 二時半

【十二月の掲示板のことば】

み仏の願いに遇うと 閉じている心が開き 共に生きる世界が 生まれる